

令和3年度 静岡県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 英語教育の状況を踏まえた目標

1 学習到達目標の整備状況(設定)

○小学校

指標内容	2018		2019		2020		2021	2022
	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	目標値
設定	—	—	—	—	10%	—	20%	30%
公表	—	—	—	—	5%	—	10%	15%
把握	—	—	—	—	5%	—	10%	15%

○中学校

指標内容	2018		2019		2020		2021	2022
	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	目標値
設定	100%	100%	100%	99%	100%	—	100%	100%
公表	40%	15%	20%	19%	25%	—	30%	35%
把握	70%	48%	55%	41%	60%	—	70%	80%

○高等学校

指標内容	2018		2019		2020 [*]		2021	2022
	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	目標値
設定	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
公表	100%	35%	100%	43%	100%	48%	100%	100%
把握	100%	62%	100%	71%	100%	75%	100%	100%

*県独自調査結果

【中学校】各学校でCAN-DOリストを作成してはいるものの、十分な活用に至っていない。各校においてCAN-DOリストの見直しがされず、実用的でないことが考えられる。新学習指導要領の全面実施を受け、学習評価に適切に活用できるCAN-DOリストの作成を目指し、研修を実施する。2021年度には、小・中・高等学校連携の研究を進めてきた研修協力校によるCAN-DOリストを参考に、全ての中学校に新たなCAN-DOリストの作成・提出を求める。

【高等学校】県内全ての学科にてCAN-DOリストが設定されているが、活用に至っていないことから、CAN-DOリストの県の様式を見直し、四技能五領域のCEFRを参考にした学習到達目標を明示し、目標に紐づいた言語活動の提出を域内の全ての公立高等学校に求めている。また、CAN-DOリストの目標達成率を測るために実施したCEFRA2レベルのパフォーマンステストの提出を求めている。把握値が100%でないことから、把握されているのが一部の集団に限られていることが考えられる。令和4年度から学年進行で始まる新学習指導要領にて目標標準型の観点別学習状況の評価を進める上でも、公表値の向上も含め、新たな様式を作成するなど、目標値達成に向けた新たな取組を行う。

2 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合

○中学校

2018		2019		2020		2021	2022
目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	目標値
85%	79%	82%	81%	85%	—	90%	90%

○高等学校

2018		2019		2020 [*]		2021	2022
目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	目標値
60%	50%	60%	63%	65%	56.6%	75%	75%

*県独自調査結果

【中学校】毎年達成値の割合が伸びており、言語活動を通して四技能五領域をバランスよく育成しようとする教員の意識がうかがえる。一方で依然として、語句や文法事項の習得を重視した活動も見られる。新学習指導要領で求められる学習評価について正しく理解されていないことが考えられるため、学校訪問や各種研修会等で、特に三つの観点について繰り返し伝えるとともに、事例紹介等も行っていくことで、授業改善を図る。

【高等学校】達成値の割合が中学校と比べても極めて低い状況にある。このことから、高等学校の教員が中学校の英語授業の実態を理解しておらず、生徒は、進学をした後に、それまでの学習内容や指導方法等を発展的に生かすことができていない状況となっている。授業を実際のコミュニケーションの場面とし、生徒が英語に触れる機会を充実させることにより、生徒が英語によるコミュニケーションを図るための資質・能力を確実に身に付けることができるよう、研修会の在り方や研修成果の普及方法を見直すことにより、教員及び外国語指導講師（以下、「ALT」という。）の第二言語習得理論の理解と授業改善への意識改革を高める。

3 パフォーマンステストの実施状況

○中学校

指標内容	2018		2019		2020		2021
	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値
スピーキングテスト	4.0回	3.0回	3.0回	4.0回	4.0回	—	4.0回
ライティングテスト	4.0回	3.0回	3.0回	3.0回	3.0回	—	4.0回

○高等学校（スピーキングテスト）

指標内容	2018		2019		2020*		2021
	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値
コミュニケーション英語Ⅰ	3.0回	3.1回	4.0回	3.0回	4.0回	2.9回	4.0回
コミュニケーション英語Ⅱ	3.0回	3.0回	4.0回	2.7回	4.0回	3.2回	4.0回
コミュニケーション英語Ⅲ	3.0回	2.4回	4.0回	2.3回	4.0回	2.5回	4.0回
英語表現Ⅰ	3.0回	2.9回	4.0回	3.2回	4.0回	3.3回	4.0回
英語表現Ⅱ	3.0回	3.3回	4.0回	2.9回	4.0回	2.9回	4.0回

○高等学校（ライティングテスト）

指標内容	2018		2019		2020*		2021
	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値
コミュニケーション英語Ⅰ	3.0回	3.5回	4.0回	3.1回	4.0回	2.2回	4.0回
コミュニケーション英語Ⅱ	3.0回	3.0回	4.0回	3.1回	4.0回	2.2回	4.0回
コミュニケーション英語Ⅲ	3.0回	2.2回	4.0回	2.6回	4.0回	2.3回	4.0回
英語表現Ⅰ	3.0回	2.9回	4.0回	2.8回	4.0回	2.8回	4.0回
英語表現Ⅱ	3.0回	3.0回	4.0回	3.1回	4.0回	3.5回	4.0回

*県独自調査結果

【中学校】学期に1回程度のパフォーマンステストが実施されていることが達成値から読み取れる。全国学力・学習状況調査の問題を活用した研修の効果も考えられる。学習評価に関する研修を通して、多面的・多角的な評価方法を用いることに対する教員の意識改善を図る。

【高等学校】「CAN-DO リスト達成状況調査」として、平成29年実施分より、全ての公立高等学校から、各学校で実施したパフォーマンステスト（「話すこと」「書くこと」）の実践事例（評価活動、ルーブリック、生徒の解答例）を回収し、外部専門機関による分析結果を研修会や講演会の形でフィードバックしている。これにより、パフォーマンステストへの理解が進んでいるが、実施する時間の確保が難しいといった理由から、実施回数を増やすことができていない。また、学年が上がるにつれて、回数が減る傾向が改善されていない。令和4年から新たに始まる観点別学習状況の評価への関心が高まっており、この機運に乗じ、外部専門機関等の協力を得ながら、パフォーマンステストの質的・量的な改善に継続的に取り組む。

4 英語担当教員の授業における英語使用状況

○中学校

2018		2019		2020		2021	2022
目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	目標値
85%	78%	80%	81%	84%	—	88%	90%

○高等学校

2018		2019		2020*		2021	2022
目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	目標値
100%	51%	100%	61%	100%	59.6%	100%	100%

*県独自調査結果

【中学校】割合は増加傾向である。英語教育推進リーダーによる師範授業や研修協力校における公開授業研修など授業参観型の研修は、教員の意識を高め、効果が高いと考える。新学習指導要領で求められる授業改善に向けて、引き続き多くの教員がモデル授業から学ぶ場を設定する。ビデオ視聴やオンラインによる研修方法も取り入れていく。

【高等学校】割合は増加傾向にあったが、60%程度で止まってしまっている。また、学習指導要領において「授業は英語で行うことを基本」とあるが、達成値の割合が中学校と比較しても極めて低い状況にある。「2 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合」と同様に、学校種間の接続という視点からも、高等学校教員に対して、令和3年度から中学校で始まる学習指導要領の改訂の内容伝達も含め、授業改善の意識改革を促す。

5 求められる英語力を有する英語担当教員の割合

○中学校

2018		2019		2020		2021	2022
目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	目標値
35%	32%	35%	37%	38%	—	45%	50%

○高等学校

2018		2019		2020*		2021	2022
目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	目標値
75%	69%	75%	71%	75%	75.2%	80%	80%

*県独自調査結果

【中学校】達成値は徐々に増加しているが、引き続き、英語力向上に向けた教員の意識改善が必要であると考え。そのために、「英語で行うことを基本とする」授業を参観したり、外部検定試験により自身の英語力を点検したりする研修を通して、英語力向上に向けた意識向上を図る。また、教員採用試験において英語に関する資格等の所有者に加点制度を実施し、養成段階から英語力に対する意識を高めていく。2019年度の達成値が2020年度の目標値をほぼ満たしており、教員の意識も高まりつつあることから、2021年度以降の目標値を修正した。

【高等学校】目標値を達成することができたため、2021年度の目標値を改めた。本県の特徴の一つとして、全ての公立高等学校へのALTの配置が挙げられ、ALTとの交流が英語担当教員の英語力向上に寄与している。そのため、ALTの指導力の向上に資する施策を講じ、ALTと日本人英語担当教員の協働によるチーム・ティーチングの授業づくり等、ALTの活用をより一層進めることにより、英語担当教員の授業力及び英語力の向上を促す。また、メーリングリスト等により、オンライン教材等の紹介を行う。

6 求められる英語力を有する生徒の割合

○中学校

2018		2019		2020		2021	2022
目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	目標値
42%	40%	42%	38%	45%	—	48%	50%

○高等学校

2018		2019		2020**		2021	2022
目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	目標値
50%	43%	50%	46%	50%	49.7%	50%	55%

*県独自調査結果

【中学校】2019年度調査において、CEFR A1 レベル相当以上を取得している生徒数が増加した一方で、CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数が大きく減少した。教員が生徒の英語力を適切に評価できていない可能性も考えられるため、パフォーマンス評価に関する研修を実施し、教員が生徒の英語力を評価する際の精度を高める。

【高等学校】CEFR A2 レベルの英語力を有する生徒の割合は年々増加してきている。複数の要因が考えられるが、外部検定試験を受検している生徒の割合が増えている（受検率 2019年度 45.7%→2020年度 55.3%）。これは、高大接続改革における英語四技能型入試の流れが影響したと考えられる。大学入試における外部検定試験の活用が留まっていることから、大学進学を意識している学校を中心に、外部検定試験の勧めを止めた学校が複数見られる。入試改革に寄らずとも、生徒の四技能五領域における英語力を向上させるために、CAN-DO リストの活用や観点別学習状況の評価への理解を進める。

7 小学校新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合

	2020		2021	2022	2023	2024	2025
指標内容	目標値	達成値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
割合	25%	14%	30%	35%	40%	45%	50%
人数	70人	37人	80人	85人	95人	105人	115人

※作成時点での目標値であり、定年延長等の条件を加味していない。

小学校教員採用試験受験者のうち、中学校英語免許取得（取得見込み）者又は、英語に関する資格等の所有者に対し、加点制度を取り入れている。その結果、新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合が、2018年度採用者は11%、2019年度は12%、2020年度は14%と微増である（2021年度は現時点で未確定）。今後は受験者の状況を考慮しながら、加点する点数の見直しや選考方法の検討・改善を図り、英語力を有する人材の確保に向けて取り組んでいく。

※次の8、9、10は県独自調査項目の結果と分析

8 自信をもって授業を行う小学校教員の割合

2019		2020		2021	2022
目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	目標値
35%	40%	45%	—	50%	60%

半数以上の教員が外国語活動の授業に自信をもてていなかった。一方で、英語免許保有教員や県独自のLETS認定教員の多くが、自信をもって授業を進めているという結果も出ている。今後も、LETSの認定を推進するとともに、授業参観や教員同士での研究協議、指導主事訪問による助言等を充実させ、自信をもって授業を行う小学校教員の割合を高める。

LETS…豊かな英語指導力がある小学校教員に対し、「LETS (License for Elementary English Teaching in Shizuoka)」という県独自の指導資格の認定を進めている。英語免許保有教員やLETS認定教員が各小学校の外国語教育推進教員として、各校及び地域の指導体制の充実を図る。

9 小学校における教員とALT等との役割分担

2018		2019		2020		2021	2022
目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	目標値
60%	60%	63%	61%	65%	—	68%	70%

ALTとのチーム・ティーチングにおいて、約4割の教員がALTに頼った指導を実施している。教員が自信をもって授業を行えるよう、その経験に応じた研修を設定する。併せて、ALTに対しても日本の外国語教育に対する理解を深め、教員と適切にチーム・ティーチングができるようにするための研修を実施する。

10 小学校教員の授業における英語使用状況

2018		2019		2020		2021	2022
目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	目標値
53%	52%	55%	55%	58%	—	61%	65%

割合は徐々に増加傾向である。英語教育推進リーダーによる師範授業や研修協力校における公開授業研修など授業参観型の研修は、教員の意識を高めるだけでなく、授業で活用できる英語表現を知る機会にもなり、効果が高いと考える。言語活動を中心とした授業改善に向けて、引き続き多くの教員がモデル授業から学ぶ場を設定する。

(2) 目標を達成するための取組

【研修の体系】 (2020年度～2022年度)

目標管理における本県の英語教育の状況を踏まえ、新学習指導要領改訂の趣旨及び要点に基づき、英語教育の改善に資する研修を5つに分類し、英語教育推進リーダー、外部専門機関や外部人材等を活用しながら体系的に計画・実施する。また、小・中・高等学校の外国語担当指導主事を中心に組織される「英語教育改善プラン推進委員会」を設置し、より良い研修の在り方や普及に向けた検討を積み重ねる。

一方、働き方改革の視点から、研修内容の重点化と効率化を図る。具体的には、小・中学校が先行して取り組む観点別学習状況の評価と高等学校が取り組む英語で行う授業実践を、相互に共有することにより、学校種間の接続を進めるとともに、それぞれが持つ課題の解決を目指す。また、新学習指導要領の円滑な実施に向けて、CAN-DOリストの活用及びパフォーマンス評価による達成状況の把握等、急務となっている課題に関する研修を重点的に行う。これらの取組を、データベース化も含め、効率的かつ効果的に普及し、広く英語教育改善への意識改革を促す。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、対面による研修等が実施不可能な場合は、可能な限りビデオ会議システムやオンデマンド型での対応策を講じる。

1 小・中・高等学校連携強化に資する研修

- (1) 児童生徒の発信力強化のための英語指導力向上事業*
- (2) 英語ブラッシュアップセミナー
- (3) 英語教員のための魅力ある授業づくり研修

2 新学習指導要領における指導及び評価力向上に資する研修

- (1) 外国語教育推進教員養成研修*
- (2) 小学校英語指導力向上研修
- (3) 中核教員のための英語力向上研修
- (4) 「主体的・対話的で深い学び」の視点による英語授業改善のための研修*
- (5) パフォーマンス評価の質的改善のための研修*

3	<u>外国語指導助手（ALT）の指導力向上に資する研修</u>	(1) 静岡県外国語指導講師の指導力向上研修 (2) ALT資質向上研修 (3) ALT授業改善サポート研修
4	<u>新学習指導要領の周知徹底に資する研修</u>	静岡県高等学校教育課程説明会
5	<u>教育の質的保障に資する研修</u>	(1) 年次別研修（小・中）（①初任者研修（小）、②初任者研修（中）、③6年次研修、④中堅教諭等資質向上研修） (2) 小・中学校指導主事訪問 (3) 年次別研修（高）（①1・2年次初期、②6年次研修、③中堅教諭等資質向上研修） (4) 高等学校定期訪問 (5) 静岡県高等学校英語教育研究会との合同研修（授業研究協議会）

*文部科学省「令和3年度小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業」申請予定のもの。

【研修内容の具体】（2021年度）

1 小・中・高等学校連携強化に資する研修

(1) 児童生徒の発信力強化のための英語指導力向上事業

対 象 者	小学校教員、中学校・高等学校及び特別支援学校英語担当教員
目 的	小・中・高等学校の各段階で研修協力校を設定し、小・中・高等学校の連携について研究を進めるとともに、教員の英語指導力向上のための取組の充実及び普及を図る。
内 容	運営協議会、校内授業研修会、連携推進委員会、公開授業研修会、地域が連携して育成を目指す資質・能力のテーマ化、小・中・高等学校がつながるCAN-DOリストの作成、観点別評価の在り方についての研修
受講予定者数	300人
研修協力校	県内2地区6校（令和2・3年度）※令和2年度は、県指定事業として実施 【伊豆の国地区】 伊豆の国市立大仁北小学校、伊豆の国市立大仁中学校、県立葦山高等学校 【焼津地区】 焼津市立豊田小学校、焼津市立豊田中学校、県立清流館高等学校
外部専門機関等	外部専門機関からの指導・助言を得る。 ※所属役職は令和3年3月末のもの 佛教大学 教育学部 准教授 赤沢 真世 氏 常葉大学 外国語学部 准教授 柴田 里実 氏 朝日大学 経営学部 准教授 亀谷 みゆき 氏 敬愛大学 国際学部 教授 向後 秀明 氏
評 価 方 法	事業アンケート（定量的、定性的データ）、公開授業参加者アンケート
備 考	研修内容の継続性、発展性及び普及率を高めつつ、研修校設置地区を年度更新にて2年ごとに変更する。方法としては、県内2つの教育事務所管内にある市町教育委員会33地区のうち各1地区を指定し、各地区にある小・中・高等学校から研修協力校をそれぞれ1校指定する。

(2) 英語ブラッシュアップセミナー	
対 象 者	小学校教員、中学校・高等学校及び特別支援学校英語担当教員
目 的	英語によるコミュニケーション活動を通じて、グローバル市民としての視点を養いつつ、基礎・向上期及び充実・発展期の教員に求められる英語力及び授業力の向上を図る。
内 容	英語の四技能五領域を統合した言語活動体験、論理的思考力・批判的思考力の育成をねらいとした言語活動体験、自校での活用に関する協議
受講予定者数	24人
評 価 方 法	研修アンケート（目標達成度及び自由記述）
(3) 英語教員のための魅力ある授業づくり研修	
対 象 者	中学校、高等学校及び特別支援学校英語担当教員
目 的	新学習指導要領における外国語の教科指導の在り方について理解することにより、基礎・向上期及び充実・発展期の教員に求められる授業力、英語の四技能五領域の総合的な育成を目指した授業づくり、その他の資質向上を図る。
内 容	講演講師による講義・演習 「心に響く発信力育成の授業づくり～コミュニケーションを図る資質・能力の育成～」
受講予定者数	28人
外部専門機関等	外部専門機関より講師を招請する。朝日大学 准教授 亀谷 みゆき 氏
評 価 方 法	研修アンケート（目標達成度及び自由記述）
2 新学習指導要領における指導及び評価力向上に資する研修	
【小・中学校】	
(1) 外国語教育推進教員養成研修	
対 象 者	LETS認定候補者、中学校英語担当教員
目 的	新たな外国語教育の実施に対応し、外国語教育推進教員の育成を通して、OJTの視点から各校、地域における指導体制の構築を進めるとともに、継続的な小中連携の一層の促進を図る。
内 容	・県教育委員会指導主事等による講義・演習（パフォーマンス評価の理解、CAN-DOリストの活用） ・小中連携のための情報交換
受講予定者数	500人
評 価 方 法	研修アンケート（目標達成度及び自由記述）
備 考	・養成研修Ⅰ…指導主事等による、LETS認定のための資質向上研修。 ・養成研修Ⅱ…認定されたLETS教員に対するフォローアップ研修。大学教授等の有識者による講義・演習を通して、推進教員としての意識や指導力の更なる向上を図る。
(2) 小学校英語指導力向上研修	
対 象 者	小学校、中学校、特別支援学校教員
目 的	小学校外国語教育の充実に向けた教科指導の在り方についての研修を通して、教員に求められる授業力、その他の資質能力の向上を図る。
内 容	文部科学省視学官による講義 「小学校外国語活動・外国語科における授業及び評価の視点」（仮） 演習「単元構想及び評価についての演習」（予定）

受講予定者数	1回50人×2回
評価方法	研修アンケート(目標達成度及び自由記述)
(3) 中核教員のための英語力向上研修	
対象者	学校において中核的な立場にある小学校外国語教育担当教員、中学校英語担当教員
目的	新学習指導要領における外国語指導力を高めるとともに、指導者としての英語力向上に向けた意識改善を図る。また、外部検定試験の受験を通して、自身の英語力を確認するとともに、英語力向上に向けた自主的、継続的な研修参加の契機とする。
内容	・英語教育推進リーダーによる公開授業の参観と協議 ・外部検定試験の受験と振り返り
受講予定者数	80人
評価方法	研修アンケート(目標達成度及び自由記述)
【高等学校】	
(4) 「主体的・対話的で深い学び」の視点による英語授業改善のための研修	
対象者	高等学校英語担当教員
目的	新学習指導要領における、生徒の資質・能力の育成を目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と学習評価についての理解と実践化を促進する。
内容	「主体的・対話的で深い学び」を実現するために静岡県が定める「授業設計診断4項目」に基づく授業改善、年間指導計画及び評価計画の見直し、ICTの効果的な活用等
受講予定者数	10人
研修協力校	県立浜松南高等学校
外部専門機関等	外部専門機関(大学)からの指導・助言 敬愛大学 国際学部 教授 向後 秀明 氏
評価方法	アンケート調査(定量的、定性的データ)、ビデオ記録及び分析
備考	生徒の主体的・自律的学習の育成に係るものとして「自己調整」に焦点をあてた英語発信力の育成のための研修を、年間を通して向後氏より専門的な知見を継続的に得る。また、同氏から1(1)における研修内容との相互比較を得ることにより、大学進学を意識した普通科高校における授業改善の促進を図る。
(5) パフォーマンス評価の質的改善のための研修	
対象者	高等学校及び特別支援学校英語担当教員
目的	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の達成状況を把握するためのパフォーマンステストの実践例を分析し、指導と評価に係る知識と技能を得ることにより、生徒の英語によるコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための教員の評価力の向上を図る。
内容	全ての公立高等学校(88校)で実施したCAN-DOリストにおけるCEFR A2レベル「話すこと」([やり取り][発表])、「書くこと」の達成状況を把握するためのパフォーマンステスト(パフォーマンス課題、評価規準に基づく生徒の解答例、評価基準)の回収及びデータベース化、外部専門機関による評価の信頼性・妥当性・効率性等の向上に向けた分析及び指導・助言、評価実践事例集の作成及びデータベースの共有による成果の普及等

受講予定者数	140人
研修協力校	データ提供校：全ての公立高等学校（88校）
外部専門機関等	・（株）Z会ソリューションズ ・東京外国語大学ワールドランゲージセンター センター長 大学院総合国際学研究院 教授 投野由紀夫氏
評価方法	外部専門機関による評価
備考	県内のパフォーマンステストを、より客観的かつ分析的に把握するため、CEFR/CEFR-Jに基づいたデータベースの作成を（株）Z会ソリューションズに再委託し、パフォーマンステストの質的改善及び教員の評価力向上のための指導・助言を投野氏に依頼する。

3 外国語指導助手（ALT）の指導力向上に資する研修

【小・中・高等学校】

(1) 外国語指導講師の指導力向上研修（SDC: Skills Development Conference）

対象者	JETプログラムにより招致されている外国語指導講師（ALT）、ALTと同数程度の小・中学校・高等学校の外国語担当教諭
目的	ALTに効果的な語学指導を行うために必要な知識、指導技術等を習得させるとともに、外国語担当教諭等と外国語教育に関する諸問題について研究協議を行い、もって本県の外国語教育の充実に資する。
内容	21世紀型能力の育成を目指した授業づくり（タスクと評価の在り方）についての講義・演習、ALT及び日本人外国語担当教員（JTE）のコラボレーションによる四技能五領域の育成を目指した授業実践発表、授業アイデアバザー等
受講予定者数	ALT162人、JTE96人（2日間実施）
評価方法	研修アンケート（定量的、定性的データ）
備考	3(3)「ALT授業づくりサポート研修」との関連付けを図る。

【小・中学校】

(2) ALT資質向上研修

対象者	市町教育委員会所属のALT（外国語指導助手）等
目的	文部科学省から出される情報を英語で提供することで、日本の小・中学校の外国語教育を深く理解する機会とする。また、実践研修を通して資質及び指導力の向上を図る。
内容	委託業者による講義・演習（年2回実施）
受講予定者数	100人
評価方法	研修アンケート（目標達成度及び自由記述）

【高等学校】

(3) ALT授業改善サポート研修

対象者	公立高等学校（88校）に所属する全てのALT
目的	チーム・ティーチング等の英語授業力に優れたALTの授業を相互に公開・参観し、指導方法等について研究協議を行うことにより、ALTの授業力の向上と各学校における授業改善の推進を図る。
内容	英語授業力に優れたALTのチーム・ティーチングによる研究授業、研究協議、英語教育推進リーダー（JTE）による助言等
受講予定者数	90人
研修協力校	県内7地区、各地区1校（計7校）

外部専門機関等	英語教育推進リーダー（企画・指導・助言者）
評価方法	研修アンケート（定量的、定性的データ）、ビデオ記録及び分析
備考	英語教育推進リーダーを委員とする実施委員会が企画・運営を担う。 3(1)「外国語指導講師の指導力向上研修」との接続を図る。

4 新学習指導要領の周知徹底に資する研修

【高等学校】
高等学校教育課程説明会（悉皆）

対象者	高等学校及び特別支援学校英語担当教員
目的	高等学校学習指導要領改訂の趣旨を説明し、各教科等の具体的な内容を周知・研究することによって、高等学校教育の改善及び充実を図る。
内容	教育課程編成に係る留意事項、外国語科、英語科における改訂の内容、目標に準拠した指導及びパフォーマンス評価に係る講義・演習等
受講予定者数	140人
評価方法	参加者アンケート（定量的、定性的データ）
備考	令和3年度はインターネット上（オンデマンド型）にて実施する。

5 教育の質的保障に資する研修

【小・中学校】

(1) 年次別研修（①初任者研修（小）、②初任者研修（中）、③6年次研修、④中堅教諭等資質向上研修）（悉皆）

対象者	①初任者（小）、②初任者（中）③5年経験者、④10年経験者
目的	教員育成指標におけるキャリアステージに応じて、実践・精査・改善を繰り返しながら、外国語科の教員として必要な資質・能力を身に付ける。
内容	① 小学校外国語教育について（講義） ② 学習指導要領、授業構想について（講義・演習） 代表者による授業公開及び事後研修等 ③④ 学習指導要領、授業構想について（講義・演習） 自己の授業実践及び振り返りと課題の明確化
受講予定者数	①300人 ②30人 ③30人 ④30人
評価方法	研修アンケート（定量的、定性的データ）

(2) 小・中学校指導主事訪問

対象者	訪問する学校に所属する全教員
目的	新学習指導要領の趣旨の理解や本県教育理念の周知、校内研修が充実するための支援等を通して、教員の授業力及び資質の向上を図る。
内容	全教員による公開授業、中心授業の参観と研究協議、研修主任と指導主事の協議、指導主事による指導助言
受講予定者数	訪問校に所属する全教員数
評価方法	研修アンケート（目標達成度及び自由記述）
備考	外国語担当指導主事が訪問をした学校では、外国語活動や外国語科の授業を中心に指導を行う。

【高等学校】	
(3) 年次別研修 (①1、2年次初期、②6年次研修、③中堅教諭等資質向上研修) (悉皆)	
対 象 者	①初期研修、②6次研修、③中堅教諭等資質向上研修対象者
目 的	教員育成指標におけるキャリアステージに応じて、実践・精査・改善を繰り返しながら、外国語科の教員として必要な資質・能力を身に付ける。
内 容	①授業の基礎技術、学習指導要領の目標及び内容、CAN-DO リストに基づいた学習指導案の作成方法 等 ②学習指導要領の目標及び内容、CEFR 及び CAN-DO リスト、単元構想の作り方 (スモールタスク、Goal Activity/Task)、観点別評価 等 ③「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善、メンターとしての助言・指導の視点 等
受講予定者数	①30人 ②20人 ③30人
評価方法	研修アンケート (定量的、定性的データ)
(4) 高等学校定期訪問	
対 象 者	訪問校に所属する外国語担当全教員
目 的	校内における授業改善や学力向上をねらいとする教科別研修及び教職員全体の資質向上をねらいとする校内研修会において、総合教育センター指導主事が指導・助言等を行うことを通して、各学校の教育力の一層の向上に資することを目的とする。
内 容	年間指導計画の指導・助言、公開授業、研究授業、教科別研修、A L T 面談
研修協力校	全課程 (年 25 校)
受講予定者数	訪問校に所属する外国語担当全教員数
評価方法	訪問校校長による評価
(5) 静岡県高等学校英語教育研究会との合同研修 (授業研究協議会) (悉皆)	
対 象 者	高等学校及び特別支援学校外国語担当教員
目 的	高等学校英語教育における今日的な課題を踏まえ、相互に授業を公開・参観し、授業形態や指導方法等について研究協議を行うことで、英語担当教員の授業力の向上と各学校における授業改善の推進を図る。
内 容	公開授業、研究協議、英語教育推進リーダー及び指導主事による指導講評
研修協力校	県東部、中部、西部ブロック (年 13 校)
外部専門機関等	英語教育推進リーダー
受講予定者数	100人
評価方法	研修アンケート (定量的、定性的データ)

(3) 実施する体制の概要

「静岡県教育振興基本計画」に基づき、外国語教育のより一層の充実を図るため、「英語教育改善プラン推進委員会」を設置し、英語教育推進リーダー、外部専門機関、外部人材等を活用することにより、児童生徒一人一人の英語によるコミュニケーションを図る資質・能力の育成に向けた研修体制を以下のように構築し、児童生徒の学びに向かう力を伸ばす教育を推進する。



静岡県教育委員会

※表中、斜線部は記入不要。計画段階では目標値のみ記入。

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022			
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値		
高等学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%		
		公表(%)	100%	35%	100%	43%	100%	100%	100%	100%	100%		
		達成状況の把握(%)	100%	62%	100%	71%	100%	100%	100%	100%	100%		
	②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	60%	50%	60%	63%	65%	75%	75%	75%				
	現行課程	○スピーキングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	3回	3.1回	4回	3回	4回	4回	4回	4回	4回	
			コミュニケーション英語Ⅱ	3回	3.0回	4回	2.7回	4回	4回	4回	4回		
			コミュニケーション英語Ⅲ	3回	2.4回	4回	2.3回	4回	4回	4回	4回		
			英語表現Ⅰ	3回	2.9回	4回	3.2回	4回	4回	4回	4回		
			英語表現Ⅱ	3回	3.3回	4回	2.9回	4回	4回	4回	4回		
			英語表現Ⅲ	3回	2.9回	4回	2.9回	4回	4回	4回	4回		
		○ライティングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	3回	3.5回	4回	3.1回	4回	4回	4回	4回	4回	
			コミュニケーション英語Ⅱ	3回	3.0回	4回	3.1回	4回	4回	4回	4回		
			コミュニケーション英語Ⅲ	3回	2.2回	4回	2.6回	4回	4回	4回	4回		
			英語表現Ⅰ	3回	2.9回	4回	2.8回	4回	4回	4回	4回		
			英語表現Ⅱ	3回	3.0回	4回	3.1回	4回	4回	4回	4回		
			英語表現Ⅲ	3回	3.0回	4回	3.1回	4回	4回	4回	4回		
		新課程	○スピーキングテスト(回)	英語コミュニケーションⅠ									4回
				英語コミュニケーションⅡ									4回
	英語コミュニケーションⅢ											4回	
	○ライティングテスト(回)		論理・表現Ⅰ									4回	
論理・表現Ⅱ											4回		
論理・表現Ⅲ											4回		
④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100%	51%	100%	61%	100%	100%	100%	100%					
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	75%	69%	75%	71%	75%	80%	80%	80%					
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)	50%	43%	50%	46%	50%	50%	50%	55%					

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	100%	100%	100%	99%	100%	100%	100%	100%	100%
		公表(%)	40%	15%	20%	19%	25%	30%	35%	35%	
		達成状況の把握(%)	70%	48%	55%	41%	60%	70%	80%	80%	
	②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	85%	79%	82%	81%	85%	90%	90%			
	③パフォーマンステストの実施状況	スピーキングテスト(回)	4回	3回	3回	4回	4回	4回	4回		
		ライティングテスト(回)	4回	3回	3回	3回	3回	4回	4回		
④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	85%	78%	80%	81%	84%	88%	90%				
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	35%	32%	35%	37%	38%	45%	50%				
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)	42%	40%	42%	38%	45%	48%	50%				

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	学習到達目標の整備状況	設定(%)				10%	20%	30%	30%		
		公表(%)				5%	10%	15%	15%		
		達成状況の把握(%)				5%	10%	15%	15%		

独自 No.	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値								
	小学校教員の授業に対する自信(%)			35%	40%	45%	50%	60%	60%		
	小学校における教員とALT等との役割分担(%)	60%	60%	63%	61%	65%	68%	70%	70%		
	小学校教員の授業における英語使用状況(%)	53%	52%	55%	55%	58%	61%	65%	65%		